

総合計画体系	政策No. 1	政策名	安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成	施策主管課	市民部 環境課
	施策No. 5	施策名	生活環境の保全	施策主管課長名	澤口 政彦
施策関連課名		戸籍市民課、八田窓口サービスセンター			

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等	③ 対象指標(対象の大きさを表す指標) * 数字は記入しない																		
市民 事業所 生活環境	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>市人口</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>事業所数(経済センサス基礎調査)</td> <td>事業所</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名称		単位	A	市人口	人	B	事業所数(経済センサス基礎調査)	事業所	C								
名称		単位																	
A	市人口	人																	
B	事業所数(経済センサス基礎調査)	事業所																	
C																			
② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	④ まちづくり指標(意図の達成度を表す指標) * 数字は記入しない																		
市民が環境保全や地域の美化に関する意識が向上する。 市内の川が綺麗になる。 企業やボランティア団体の市民が、市内の環境や美化に意識を持つようになる。 ごみの分別の意識を持ち、資源の再利用につながり、ごみの減量化となる。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">名称</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>A</td> <td>平均BOD値が2mg/l以下の河川の割合</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>地域美化活動参加者数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>アダプトプログラム参加団体数</td> <td>団体</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>市民1人1日当たりのごみ排出量</td> <td>g/人・日</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>廃棄物のリサイクル率</td> <td>%</td> </tr> </table>	名称		単位	A	平均BOD値が2mg/l以下の河川の割合	%	B	地域美化活動参加者数	人	C	アダプトプログラム参加団体数	団体	D	市民1人1日当たりのごみ排出量	g/人・日	E	廃棄物のリサイクル率	%
名称		単位																	
A	平均BOD値が2mg/l以下の河川の割合	%																	
B	地域美化活動参加者数	人																	
C	アダプトプログラム参加団体数	団体																	
D	市民1人1日当たりのごみ排出量	g/人・日																	
E	廃棄物のリサイクル率	%																	
<p>・まちづくり指標設定の考え方(理由、数式も)</p> <p>・まちづくり指標の測定規格(手段はアンケートか、統計か)</p>	<p>A: 河川環境の清浄度を示す。【BOD平均値(年2回調査)が2mg/l以下の河川数÷調査河川数(25河川)×100】</p> <p>B: 環境保全意識の定着を示す。【地域清掃等への参加者総数】</p> <p>C: 団体・企業等による環境保全活動の取り組みを示す。【登録団体総数】</p> <p>D: ごみの排出量削減の取り組みを示す。【ごみ年間総排出量(g)÷人口(3月31日現在)÷365日】</p> <p>E: 循環型社会への取り組みを示す。【年間資源ごみ総排出量÷年間家庭系ごみ総排出量×100】</p>																		

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
対象指標	A 人	見込み値		72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
		実績値	72,963	72,715	72,305				
	B 事業所	見込み値		3,161	3,161	3,161	3,161	3,161	3,161
		実績値	3,161	3,161	3,161				
	C	見込み値							
		実績値							
まちづくり指標	A %	目標値	未設定	未設定	81.0	81.5	82.0	82.5	83.0
		実績値	80.0	88.0	100.0				
	B 人	目標値	18,551	19,107	23,000	23,500	24,000	24,500	25,000
		実績値	21,095	20,972	20,920				
	C 団体	目標値	16	16	18	18	19	19	20
		実績値	17	19	19				
	D g/人・日	目標値	未設定	515.0	507.0	501.0	495.0	489.0	483.0
		実績値	533	565	553				
	E %	目標値	17.5	17.5	16.3	16.6	16.9	17.2	17.5
		実績値	15.6	15.1	14.1				
関連事業本数			37	36	35	35			
関連事業予算額(単位:千円)			1,007,802	961,236	940,325	928,907	0	0	0
(予算額の内訳)	国庫支出金		2,652	3,730	2,938	3,730			
	県支出金		37,876	4,990	4,770	5,414			
	地方債		0	0	0	0			
	その他		62,543	61,757	72,510	69,768			
	一般財源		904,731	890,759	860,107	849,995			

目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)

A: 環境基本計画策定時の現況値(76%)を基に5年間で約5%の上昇を見込む。
 B: H24年度実績(23,231人)を基に5年間で約10%の参加者増(H24年度比)を目指し目標値を設定。
 C: 現況地を基に5年間で約20%の参加者増を目指し目標値を設定。
 D: 一般廃棄物処理基本計画に基づき、H24年度実績(520g/人・日)から約7%減で目標値を設定。
 E: H24の県平均17.5%を目標値に設定。

3 評価結果

施策の有効性評価

① 目標達成度評価（目標値と実績値との比較）

- 目標値より高い実績値だった
- 目標値どおりの実績値だった
- 目標値より低い実績値だった

※左記の理由

・河川環境の清浄度を示すBOD値は、目標値81%に対し実績値100%で目標を大きく上回った。また、地域美化活動の参加者数及び、アダプト・プログラム参加団体数は、ほぼ横ばい状況である。
 ・ごみ全体の排出量は微減傾向にあり、「市民1人1日当たりのごみ排出量」も若干減少したが、目標に対して46g下回った。また、「廃棄物のリサイクル率」は2.2ポイント下回った。

② 時系列比較（過去5ヶ年の比較）

- 成果がかなり向上した
- 成果がどちらかと言えば向上した
- 成果はほとんど変わらない（横ばい状態）
- 成果がどちらかと言えば低下した
- 成果がかなり低下した

※左記の理由

・地域美化活動参加者数及び、アダプト・プログラム参加団体数は、ほぼ横ばい状況である。
 ・廃棄物の収集量はほぼ横ばいに推移してきたが、平成25年度に南北の資源回収センターを開設したことに伴い、ごみの全体量が激増し「市民1人1日当たりのごみ排出量」が増加した。このため、「廃棄物のリサイクル率」の向上には繋がらなかった。
 また、平成27年度は、ごみの全体量が若干減少したものの成果は横ばい状況にある。

③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

※左記の理由

・人口規模や収集体系など各自自治体が独自の施策を展開しており、一概に比較できないが、ほぼ同程度の状況であると考えている。
 しかし、資源回収センター方式で廃棄物の収集を行なうことにより、収集量の増加と市民の利便性の向上に繋がっている。
 ・散乱ごみや不法投棄対策として、アダプト・プログラム事業を展開していることにより、環境保全の意識向上に繋がっている。

④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である
- どちらかと言えば高い成果水準である
- ほぼ同水準である
- どちらかと言えば低い成果水準である
- かなり低い成果水準である

※左記の理由

・河川環境の清浄度を示すBOD値が100%であったことは、市民の生活環境の保全に繋がっている。
 また、地域美化活動参加者数及び、アダプト・プログラム参加団体数は、横ばい状況で推移している。
 ・ごみ全体の排出量は微減傾向にあり、それに伴って「市民1人1日当たりのごみ排出量」及び、「廃棄物のリサイクル率」も若干減少傾向にあるが、全体的には、ほぼ同程度で推移している。

4 まとめ

施策の課題抽出とその課題解決（成果向上）の方向性と具体的な取組内容

施策の課題抽出	課題解決の方向性	具体的な課題解決・改善内容
平成28年度から効率的な廃棄物の収集と地域間格差の解消のため、回収体系の見直しを行なった。これに伴い、白根地区のリサイクルステーションで資源ごみが溢れる問題が発生している。	白根地区のリサイクルステーションは毎日24時間資源ごみを出すことができ、回収も常時行なってきた。 また、役員の立会いも無く排出するため、分別されていない状況がある。 このため、他地区と同様に回収日の統一と、役員の立会い方式による分別の徹底を図っていく。	収集体系の見直しについては、平成28年度からの実施に向けて、各地区環境美化員連絡会や各自治会連合会への説明の他、各地域への回覧及び広報での特集による周知に加え、各地区役員とのヒヤリングの実施により周知に努めてきた。 しかし、地域住民への周知が徹底されていない地域があり、前年度までと同様に排出を行なっているため、溢れてしまう問題が発生している。 このことから、廃棄物の分別や排出方法等の指導・啓発を図る中で、他地区の参考事例の紹介や必要に応じて説明会を開催するなど、地域と連携を図りながら問題の解決に努めていく。 また、リサイクルステーションの規模、設置数、搬入戸数、収集状況等の精査を行なう中で、今後の回収体系の参考としていく。